

府議 京都 農業会

第126回総会、農業委員会会長・事務局長研修会を開催

京都府農業会議は、6月25日、京都J Aビルで第126回総会と令和7(2025)年度「農業委員会会長・事務局長研修会」を開催した。



長野市農業委員会・青木会長の講演

総会には、書面で議決権を行使した会員を含め全会員(70人)が出席。令和6(24)年度事業報告および収支決算の承認、理事2人の補充選任など、すべての議案が異議なく承認された。

総会後の研修会には、約60人が参加し、講師の長野市農業委員会・青木保会長が「地域計画への期待・実践を通じて思うこと」と題して講演した。青木会長は、地域ぐるみで基盤整備を進めて農業を効率化し、新規就農や親元就農の担い手を増やして果樹産地の復活につなげた取り組みや、現場で活動して地域農業を牽引する農業委員への期待などを熱く語った。

また、宮津市農業委員会の関野揭司会長が「地域で取り組む持続可能な農業・農村づくり」について発表。地域に根ざした委員の活動例として、「農業お助け隊」を結成した吉津地区「農地管理協議会」を立ち上げた日置地区、毎月の農談会から移住者受け入れ体制を整備した日ヶ谷地区の取り組みなどを紹介した。

黄綬褒章を受章
城陽市農業委員会 谷則男 会長

城陽市農業委員会の谷則男会長が、今春、黄綬褒章を受章した。

1984年に就農した谷会長は、現在、年間約600種類(約48万株)の花苗と野菜苗、湧水花き(花ハス)を栽培する。独自配合した培土を使用し、温度と湿度の管理を徹底して発芽率を高めるなど栽培技術を磨き、各品目の栽培管理を統一した。

約20年前からカタログ通販に取り組み、注文後すぐに顧客のもとへ苗を届ける体制を確立。作業の省力化やコスト削減も



「妻と家族の協力に感謝しています」と語る谷則男さんと妻の恵子さん

現場の想い

◆地域計画は、農業者の話し合いを通じて、地

地域計画と農振計画の一体的な運用を

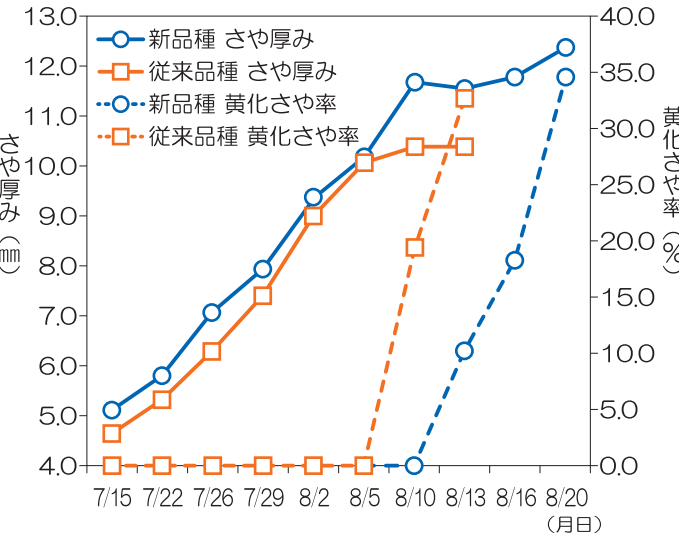
域農業の将来像を描き、守りたい農地の範囲と今後の利用者を目標地図に表示した市町村の計画だ。一方、農振計画(農業振興地域整備計画)は、市町村が「農業振興

(一念通天)

京都

京都府支局 京都府農業会議

京都市上京区出水通油小路東入丁子風呂町1042 府庁西別館内 075・441・3660



新品種は莢が厚く、従来品種より莢の黄化が5日程度遅い



現地試験の生育状況を確認

「京 夏ずきん」は、丹波黒大豆系の枝豆で、8月に収穫できる早生品種だが、収穫適期が短い。大規模に栽培すると収穫作業が間に合わず、莢の黄化による品質低下が課題となっていた。そこで、生物資源研究センターは、従来品種より

収穫適期が長い新品種の「京 夏ずきん」を開発

「京 夏ずきん」は、丹波黒大豆系の枝豆で、8月に収穫できる早生品種だが、収穫適期が短い。大規模に栽培すると収穫作業が間に合わず、莢の黄化による品質低下が課題となっていた。そこで、生物資源研究センターは、従来品種より

京都府農林水産技術センター ほつとニゴース 生物資源研究センター

り収穫適期が長く、ウイルス抵抗性を持つ新品種を開発。昨年、生産者のほ場2カ所(計2

農deまらまち



伝統の淀苗をPRする山口さん

久御山町 山口智己さん

伝統の淀苗づくり

久御山町で伝統の野菜苗(淀苗)を中心に生産する山口智己さん(31)。京都府立農業大学校を卒業し、大手育苗会社に就職して経験を積んだ後、24歳で実家に戻り、育苗方法の改善に取り組んだ。具体的には、苗床に発泡スチロールを敷き、その上にお湯が流れる配管を設置して、均等に苗床を温める環境を整備。さらに、一度に多くの苗を扱えるように、播種から接ぎ木までの工程を従来のポットからセルトレイに変更し、作業効率が大幅に向上した。

「病害虫な



女性委員が “つないで発信”

収穫を楽しみにブドウの摘粒作業をする 中澤委員



女性が農業に関わる機会を創りたい！

今年から農業委員になって2年が経過し、深刻に気軽に農業に関わってほしいな」と思ってもらえる企画を実現しようと思っています。

(亀岡市農業委員会・中澤加寿子委員)

2025年度 京都農業経営塾

8月7日開講 受講生を募集中

京都府農業会議は、次世代の農業経営者を育成する「京都農業経営塾」(8月開講、全8回十個別相談会)の受講生を募集している。